

この1年を振り返る（補充編）

2022/12/14

野口幹夫

KOZOOMのテーマとなったために、自分のためのいい機会がこの1年を振り返ります。自分のことばかりで、お見せするほどのものではないことを初めにお断りしておきます。

年の初めの1月2日一番上の孫がロンドンに向け飛んでいきました。勤務地がそこになったためです。9月には4番目の孫が小型衛星の仕事でオランダに行きました。5番目も就職先が決まり、これで全員社会に飛び出していきます。孫の世代の飛躍の年でした。

逆に子供の世代は1線を引退していった年です。2重の世代交替を感じる年でした。

自分たち世代の「その時」は幸い、まだ来ませんが。

自分のことを振り返ります。まず健康、去年夏思い切って一日2食主義を宣言して体重を3k減量しました。BMI25以下が目標で達成でき、幸い今年は2食主義のような無理をやめて、食欲のままに食べても安定しています。体重は健康のバロメーターです。

今年始めたことはセルフマッサージです。3月ごろ手術していない方の膝が痛み始めたので近くの整体院のマッサージに通いました。その施術が特別な方法ではないので自分でもできると思ったのが始まりです。セルフマッサージだと細かい痛み場所がわかるので、思い通りのマッサージができます。その手法で長年悩んできた左肩の凝り傷みが解消しました。

もう一つは重曹泉の採用です。数ある温泉種の中で希少な重曹泉が血行の改善に役立つことを説く本があって、その紹介されていた重曹の入浴剤を求めたのです。2か月分で6000円もしてちょっと高価なのですが、医学的な裏付けがあるようなのでこれに決めて毎日15

分の重曹泉入浴をする習慣を始めました。

3年前の9月から、ひざの手術後のリハビリで始めた毎朝の海岸ラジオ体操参加は今年も皆勤です。1月には健康診断で見つかった不整脈対策の心臓アブレーション手術を受けたことなどは、小さなエピソード位にしか感じていません。

1 昨年の年末から始めた毎日1首の短歌づくりは今年も継続、目標の千首にはまだ数か月かかりますが、出来事だけの日記の後、今日は何に感動したかの心のうるおいを振り返るすべを与えてくれますから、千首を超えても継続するでしょう。

コロナで中止していた妻との旅行も今年再開しました。助成クーポンの助けも借りて、5回の旅行をしました、念願の下呂温泉や奥大井川溪谷の旅は印象深いものでした。

よく行った映画にはいかなかった替わりの楽しみが現れました。テレビドラマです。「鎌倉殿の13人」から始まり、「拾われた男」「アトムの子」「霊媒探偵城塚翡翠」などのドラマは毎週録画して楽しむようになりました。それに合わせて30年前のドラマ「阿修羅のご



とく」向田邦子作が再放送されましたが、名作ですがやはり古い時代を感じてしまいます。

最後に庭の変化です。去年から思いついて米のとぎ汁を施肥したからか40年の梅の古木がどっさり実をつけました。老木でも栄養次第だと知りました。貝塚いぶきの老木を1本切り、代わり

にオリーブの木とアカシアの若木を植えました。プランターに買った花の名が「ダカーポ」。
それで思い出してボーカル「ダカーポ」の歌を聞きました。「思い出してごらん、あんなこと、こんなことあったでしょう」思いがけず懐かしい思いに浸りました。

そして1年が終わりました。

別の切り口でこの1年を振り返り補充します。

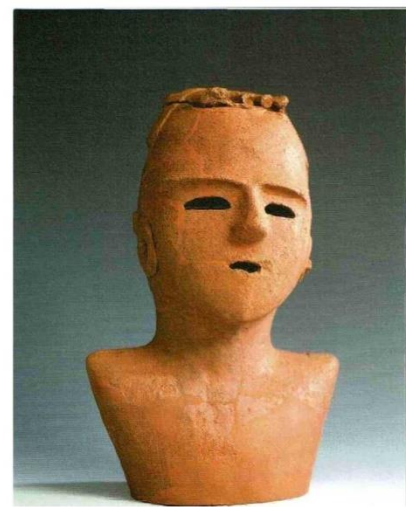
まず三水会活動です。40年続く知的探索の雑学研究会です。今年3月に『埴輪のほほえみ』を発表しました。高津5期HPにも掲載しました。これで2008年出雲大社参拝から端を発した日本の古代探求の旅は完了しました。このテーマで三水会には7回の報告をしました。

三水会に私は別の継続テーマを持っています。加藤

先生から示唆いただいたベルグソン研究です。これまで紹介の意味で8回の報告をしましたが、最後が2018年の『精神のエネルギー第4回 精神と「気」と祈りについて』を行って中断、その先の進め方で悩んでいます。今年は再開しようと思い、日本心霊科学協会の動向を探ってみました。じっくりこないのもまた出口を探り続けます。

三水会のほかのお仲間のお話を聞くうちに関心をもつようになってきたのが、「社会的連帯経済」を目指すグループの活動です。地球環境破壊の元凶である資本主義グローバリズム

埴輪のほほえみ



(千葉県芝山町はにお博物館の展示品)

2022年3月16日三水会発表

野口車宇夫

の衰退とその先の人間社会の経済活動の在り方を探る方向付けとなりうるのかどうか、少し本腰を入れて彼らの活動を見ていきたいと思います。これは今年の新たな芽でした。

二つ目が茅ヶ崎教会での活動であるキリスト教入門講座です。今年で28年目を迎えました。2020年はコロナで中止しましたが、昨年から何とか再開し、去年は2名、今年は幸い5名の受講生を迎えることができました。既に洗礼を受け繰り返し顔を出す受講生もいて、にぎやかに教室を開いています。

三つ目、チェロは楽しむ機会が減っていますが、それでも今年のテーマ曲をカザルスの「鳥の歌」と決め、気が向けば弾いています。入手した楽譜ではむつかしいので引きやすいオクターブに移調して何とか楽しめるところまで来ています。

最後に今年の事件は愛車の交替です。9年間乗ったホンダのN-oneは車体の傷も目だつようになり、ダイハツのTANTに乗り換えました。6月に契約。今年は半導体不足で生産が遅れ、納車は10月でした。本当は「電気自動車で自動運転の車」が望みですが、それはまだ無理、5年先には実現とみて、今回は5年で返却の条件の今流行の「サブスクリプション契約」で購入しました。所有権はなく、5年の使用権契約ですが、100万円の頭金と月額6500円支払いと経済的で楽です。5年後には「電気の自動運転車」が入手でき、93歳でも乗れると思ってのことです。

このTANTは、高齢者向けの完全装置付きで、また窓が広く頭も高いので乗り心地もよく満足しています。

